

II 実践の展開

第4章

男女共同参画センターによるユース事業 大学への授業プログラムの提供

神崎 智子

1 はじめに

福岡県男女共同参画センター「あすばる」（以下、あすばる）は、福岡県の男女共同参画社会づくりの拠点として1996年に開館し、男女共同参画に関する情報の収集発信や研修・人材育成など多様な事業を展開している。最も大きな事業は、「福岡県男女共同参画推進条例」に定められた「福岡県男女共同参画の日（11月第4土曜日）」に、福岡県や女性団体との共催で毎年開催している「あすばる男女共同参画フォーラム」（以下、「あすばるフォーラム」）である。「あすばるフォーラム」は、県民が男女共同参画社会の意義を改めて認識し、男女共同参画への取組をさらに推進するきっかけとすることを目的としており、メインの催しである基調講演のほか、県民の企画による「県民企画事業」など、多種多様な催しが行われている。

「あすばる」という愛称は、「明日」と、集まって1つになるという意味の「統ばる（すばる）」を組み合わせたもので、明日に向かってみんなが1つになって男女共同参画社会を形成していこう、という思いが込められたネーミングである。

男女共同参画社会の形成にあたっては、「あすばる」の名前のとおり、老若男女すべての人々が集まって、知恵と力を結集することが重要であるが、

取組を絶えることなく継続し発展させるためには、若い世代の参画が欠かせない。

本稿では、「あすばる」が若い世代への働きかけを目的に実施している事業の中から、福岡女子大学の正課の科目である「体験学習」に提供している授業プログラムについて紹介する。

2 福岡女子大学の「体験学習」科目について

福岡女子大学は、わが国初の公立の女子専門学校として1923年に開学した福岡県立の「福岡女子専門学校」を前身とする4年制の大学で、開学以来、「次代の女性リーダーを育成」することを基本理念とした教育を行っている。

そして、リーダーシップを身につけるための特徴的な教育として、実社会での体験を通して、自ら進んで課題に取り組む力や多角的に物事をとらえる力などを学ぶ「体験学習」が正課として位置づけられており、企業やNPOなどが種々のプログラムを提供している。

「体験学習」は、1年生から4年生までが履修できる「学部共通科目」として開講されており、1つのプログラムを履修すると2単位が付与され、4年間で4プログラム（8単位）までを履修することができる。

履修生の募集にあたっては、次年度のシラバス公開前に、開講予定のプログラムの概要をまとめた「プログラムカタログ」が配布され、新年度当初に開催される「体験学習オリエンテーション」や授業説明会で、各プログラムの担当教員による説明が行われている。新入生に対しては、新入生オリエンテーションで説明がなされている。

「あすばる」のプログラムの担当教員は、国際文理学部国際教養学科・深町朋子教授である。深町教授は、あすばるとの連絡調整、履修希望者への事前ガイダンスを行うほか、履修期間中には随時学生とミーティングを行い、活動の助言や進行状況の確認等を行っている。

3 あすばる提供プログラム

プログラムの概要

あすばるは、2016年度からこのプログラムを提供しており、当初は「あすばるサービスラーニング」と呼ばれていたが、2019年度から「男女共同参画の学びと発信@あすばる」という名称に変更した。定員は4人で、これまでの履修者は、2016年度6人、2017年度3人、2018年度0人、2019年度1人、2020年度0人（新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）、2021年度5人、2022年度2人である。

「男女共同参画の学びと発信@あすばる」は、学生が男女共同参画社会についての知識を得るだけでなく、男女共同参画推進の課題解決のための取組企画を実際に作成・実施し、その中で実践的な企画力を身につけたり、他者と対話する対話力やリーダーシップを身につけるといった実践を重視したものであり、名称変更とともにカリキュラムも工夫した。

初期のプログラム

プログラムの提供を始めた2016年度と翌年の2017年度「あすばる」では、社会人を対象に、次世代の女性リーダーを養成するための「ふくおか女性いきいき塾」（以下、いきいき塾）という10回連続の講座を開いており、「体験学習」のプログラムは、このいきいき塾の講座に参加することを核としたカリキュラムとしていた。

いきいき塾は、2012年3月に策定された「福岡県総合計画（計画年度2012年度～2016年度）」に、重要な柱の1つとして掲げられた「女性がいきいきと働き活躍できること」を実現するための取組として、「地域や企業などにおいて、責任ある立場で活躍する女性の人材を育成する」ことを目的に、2012年度から2017年度まで実施された事業である。

いきいき塾には、「男女共同参画」「キャリア形成」「リーダーシップ」な

ど、各分野の第一線で活躍する講師を招いての講義、講師との討論会、グループに分かれての課題研究、地域活動実践者との交流会などのプログラムが組み立てられており、学生は講座の準備資料の作成や当日の運営の補助、広報などの実務を経験しながら、各分野の第一線の専門家の講義の受講、グループワークの体験をすることができた。そのようなことから、学生にとって大変魅力的な体験プログラムであったと思われるが、何より、いきいき塾は土曜日の開講であったため、他の科目の履修とバッティングすることなく、体験学習を履修することができるというメリットがあった。

しかし、いきいき塾終了後の2018年度は、新しくスタートした講座が企業人対象であったことから、平日の日中開催が多くなったこともあり、学生が都合よく履修できるようなカリキュラム構成にすることができず、希望者はいなかった。

そこで、2019年度のプログラムは、あすばる側で日程と内容を決めたカリキュラムを学生が受講するのではなく、学生自身で事業を企画し実施するという方式に変更した。これまでの「決められたカリキュラムに参加する」という履修から、「自ら企画して学ぶ」というスタイルに転換したのである。

学生の自発的取組の導入—2019年度プログラム

学生自身が事業を企画し実施することにした2019年度は、全15回の授業のうち、第1回（事前学習）と第15回（事後学習）を担当教員が大学内で行い、第2回～14回の授業をあすばるで行うこととし、授業の日にち・時間は学生の希望を聞いたうえで決定することにした。

履修希望者は3年生1人だったので、学生が企画・実施する事業に関して、あすばるから、①「あすばるライブラリー」の企画展示、②男女共同参画の啓発用パネルの制作展示、③「あすばるフォーラム」関連イベントの実施、の3つのメニューを提示して、担当教員に面談をしてもらい、学生の希望を聞いた。

学生は③の「あすばるフォーラム」関連イベントの実施を希望したので、

II 実践の展開

11月に開催する「あすばるフォーラム」の前日にイベントとして、文教学院大学名誉教授・山下泰子さんを囲む大学生の座談会を行うこととし、その準備から実施までのカリキュラムを作成した。

2019年は、女子差別撤廃条約が採択されて40年目にあたることから、この年の「あすばるフォーラム」は、長年、女子差別撤廃条約の研究・普及に尽力をされている山下泰子さんに基調講演をお願いしていた。山下さんがイベントへの出席を快諾してくださり、座談会を行う運びとなったものである。

授業カリキュラムは、6月と7月初旬に、あすばるが実施する「男女共同参画の基礎講座」等の講座受講（2回）、7月下旬から「あすばるフォーラム」開催の11月までの間に、企画会議（座談会の組み立て、登壇者、全体スケジュールなどを協議し企画書作成）、広報会議（実施前・実施後の広報戦略、SNS、映像等の発信計画検討）、準備調整会議（当日参加者確認、スタッフ役割分担確認、資料準備、台本作成、必要物品確認など）の開催（計5回）、イベント（座談会）の運営（会場準備、実施、プレス対応、片付けなど）、「あすばるフォーラム」の運営補助（スタッフとして参加）を行う計9回の授業とした。

学生が実施したイベントは、「大学生が語る、ライフステージの中のジェンダー——山下泰子さんを囲んで」という座談会である。パネリストは、履修生を含めた女子学生2人、男子学生2人の計4人とし、福岡県立大学講師・坂無淳さんに進行をお願いした。

座談会では、結婚、子育て、就職などさまざまな場面における男女の格差や日頃感じている違和感について、友人や親など周囲の人の例も含めて語り合い、山下さんからコメントをいただいた。そして、終了後にディスカッションを振り返り、座談会で得たことを「#MeeToo」のように発信しようと、ハッシュタグ作成ワークショップを行い、「#男女の当たり前をなくそう」「#当たりの前のベールをはがそう」「#“逆”だったらどうだろう?」「#対等につきあっていく」などの言葉を書き出した。座談会はビデオ録画し、翌日の「あすばるフォーラム」の基調講演会場で映写したほか、ネットにアップロー

ドし、啓発・広報資料として活用した。

写真1 プレイベント

「大学生が語る、ライフステージの中のジェンダー—山下泰子さんを囲んで」



このように、2019年度は「学生が自ら企画して学ぶ」ことを支援するという方式の授業に転換した年であった。これは、全く経験のない学生に1からイベント開催のイロハを教えるもので、「あすばる」にとっての負担は大きかったが、若い世代があすばるに親しみを感じるきっかけとなることや、学生のイベントが社会に発信する影響力を考えるとプラス面が大きいので、転換に踏み切ったものである。

翌2020年度も同じ方式で授業を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむを得ず受け入れを中止した。

2021年度は、2019年度と同様に、学生自身で事業を企画し実施することを主な活動内容としたが、コロナ感染対策のために、主としてオンラインで授業を行うことにした。

学生の自発的活動の更なる発展—2021年度プログラム

2021年度は、プログラムを紹介する学生向け説明文の中に、「『若い世代』へのアウトリーチを目的とした事業を学生自身が企画し実施する」という文言を入れて、どのような活動をするかを学生自身が考えるということをより前面に出し募集を行った（定員4人）。

5人の履修希望があり、5人全員を受け入れることにした。内訳は、2年生4人と4年生1人である。履修生への事前アンケートから、全員が事業企画に対する意欲が非常に高いことがうかがえた。特に4年生の学生は、2年生の夏休みにあすばるで10日間のインターンシップを経験した学生で、あすばるの事業についてもよく理解しており、自主企画も高いレベルの成果物ができることが予想されたため、自分たちの企画を「あすばるフォーラム2021」の県民企画事業に応募する形をとって実施してはどうかと提案した。

あすばるでは、「あすばるフォーラム」を県民の手によって盛り上げるために、毎年、県民のグループや団体を対象に、男女共同参画をテーマとする県民企画事業を募集している。講演会やパネル討論の開催、映画鑑賞会や寸劇の披露など、多種多様な企画の応募があり、採択された企画には、あすばるから助成金を交付している（2021年度は6万円）。

2021年度は、コロナ感染の先行きが不透明であったため、「あすばるフォーラム」はオンライン開催とし、県民企画事業もオンライン配信を条件とした。

学生たちが考えたオンライン企画は、「夫婦の姓をテーマにした動画を作成し配信する」という次のような企画であった。

企画テーマ：「#名字#一緒 これって当たり前？」

企画のねらい：①夫婦の姓に関して、今後その問題に直面するかもしれない大学生が、事前に夫婦同姓・夫婦別姓について理解したうえで自分の将来について選択できるようになること及び②動画の視聴者が、婚姻時に女性が名字を変えるという「当たり前」を問い直し、男女共同参画について考えるきっかけを提供すること。

内容：2部構成の動画作成（第1部 解説編 第2部 対談編）

第1部 婚姻と姓に関する現在の制度、女性が名前を変えることが当たり前になっている状況、大学生に対して行ったアンケート結果（SNSを使って9月26日～10月19日に実施、218人から回答）などを、図表を使って履修生が解説

第2部 「#男女共同参画ってなんですか」代表の櫻井彩乃さんを迎え、櫻井さんが結婚・改姓したときの体験談や櫻井さんの考え、選択的夫婦別姓制度に関する近年の動向などについて、櫻井さんと履修生が対談

図1 学生作成の県民企画事業チラシ

#名字 #一緒
これって当たり前？

11.27 公開
県民企画事業

2021 あすばるフォーラム
福岡女子大学体験学習
「男女共同参画の学びと発信@あすばる」

結婚したら女性の名前を変える。女性の姓が男性の名前に変える。これらが当たり前は、どうして当たり前になったのでしょうか？
第1部では、メディアや歴史制度を参考に現状を思い返し、選択的夫婦別姓導入について大学生が考えます。
第2部では男女共同参画の基礎講座で活動されている櫻井彩乃さんが講師に！
改姓の実体験や近年の日本の動きについてお話を伺います。
今後このような当たり前に直面する私たち大学生。
これからどう向き合っていけばいいのか、一緒に考えてみませんか？

講師：櫻井彩乃さん
「#男女共同参画ってなんですか」代表
30歳以下のユースセンターに属する
もやもやを集め、政治に届ける活動を行
う。第5次男女共同参画基本計画策定に
向けたパブリックコメントでは、1,000
件以上のユースの声を提出し発信し、
内閣府男女共同参画推進連絡会議の有識
者も務める。

あすばるフォーラム
特設サイト

11/27
動画視聴はこちら

学生は6月にあすばるに来館し、男女共同参画の基礎講座の受講と全体的なスケジュールを確認する1回目の授業を受けたあと、7月から11月にか

II 実践の展開

けて、テーマの決定、講師の決定／依頼、動画のコンテンツやシナリオ作成、動画収録、編集、広報計画作成などを内容とするオンライン授業（計10回）に出席して動画を完成したほか、「あすばるフォーラム」終了後の12月にあすばるに来館し、活動報告及びあすばるの職員との交流を行う授業に出席した。この12回の授業のほかに、学生は担当教員とのミーティングを4回、学生だけのミーティングを25回行っている。

県民企画事業は、11月27日～12月4日と年末年始の12月28日～1月4日に、あすばるの特設サイトから配信を行った。学生たちが作成した動画は、1部と2部合わせて、延べ465回視聴された。

この県民企画事業をきっかけに、NHK福岡放送局からの依頼で、番組「#Beyond Gender九州・沖縄キャンペーン」に出演し、国連女子差別撤廃委員会委員・秋月弘子さんとオンライン対談を行うなど、学生たちの活動はさらに発展した。

また、あすばるでも2022年3月8日に、国際女性デーの企画として、履修生によるトークセッションのライブ配信を行った。「Z世代が語る、ジェ

写真2 あすばる国際女性デー特別企画

「Z世代が語る、ジェンダー平等社会」ライブ配信



ンダー平等社会」と題するトークで、あすばる事務室前に特設会場を設け、彼女たちの将来の夢やキャリア形成に関する考え方、自分たちが考えるジェンダー平等社会、ジェンダー平等社会になるために今後やっていきたいことなどを語ってもらい、オンラインで配信した。

この体験学習は学生の満足度も高く、事後のアンケートでも「多くの人とのつながりができ、世界が広がった」「今まで違和感さえ抱かなかつことに疑問を感じるが増え、視野が広がった」「今まで指示されたことをするだけだったが、すべて自分ですること、行動力が身についた」といった感想が寄せられた。

また、学生から「あすばる体験学習のインスタグラムのアカウントを作成し、あすばるの行うイベントなどの紹介をしてはどうか」という提案があっ

写真3 インスタグラム



II 実践の展開

た。そこで、あすばるは早速この提案を採用して「男女共同参画の学びと発信@あすばる」(写真3)というアカウントを作成し、学生たちの手によって運用が始められた。現在、2022年度の履修生がこのアカウントを引き継ぎ、情報を発信している。

4 おわりに

これまで見てきたように、「学生が自ら企画し実施することをあすばるが支援する」という授業のスタイルは、学びと発信の両方に、大きな成果を生み出した。

もちろん、この手法は履修生の人数、学年、インターンシップ経験の有無など、学生側の事情によって企画に差はあるが、学生にとっては、企画の立案実施を経験することこそが貴重な学びである。

今年度の履修生は2人で、2人とも1年生である。新入生オリエンテーションで、昨年度の履修生が行った「あすばる体験学習」の説明を聞いて履修を希望したということであり、大学内での本プログラムの関心とつながりが続いている。

今年度の履修生が希望する活動は「広報活動」で、「あすばるフォーラム」をはじめ、あすばるの情報を年間を通して発信するという企画を掲げている。2人は、昨年度の履修生の提案で開設したInstagramへの投稿のほか、彼女たちが所属するSNS上のコミュニティへの情報発信など、いろいろな企画を考え、実施中である。

男女共同参画社会の形成は、歩みを止めず継続発展させていかなければならず、そのためには若い世代の参画は欠かせない。あすばるでは、本稿で紹介した福岡女子大学への授業提供のほか、インターンシップの受け入れ、大学への出張講義なども行っている。また、九州産業大学の地域共創学部の学生グループが、毎年「あすばるフォーラム」で県民企画事業を行っている。

あすばるは、これからも若い世代の自発的取組による、若い世代への発信

が次々に生まれるよう、さまざまな形で連携・支援していきたい。

参考文献

男女共同参画センター「あすばる」2020『あすばる情報誌 あすばる〜ん』
N0.95 2020年冬号

福岡県男女共同参画センター「あすばる」ホームページ <https://www.asubaru.or.jp/>

2021年度体験学習発表会報告 <https://www.asubaru.or.jp/139413.html>

国際女性デー YouTube ライブ配信報告 <https://www.asubaru.or.jp/142200.html>

センター長コラム No.71 Z世代が語る―「国際女性デー」あすばるイベント
<https://www.asubaru.or.jp/141870.html>

インスタグラム「男女共同参画の学びと発信@あすばる」@fwu_asubaru

(かんざき・さとこ 福岡県男女共同参画センターあすばるセンター長)